

令和3年度普及指導計画プロジェクト課題実績 概要 (修正版)

令和4年2月3日 石巻農業改良普及センター

課題名	計画期間	対象(地域等)	概要
1 被災農地における土づくりの推進による生産性の向上 「農地中間管理事業」 「アグリテック」関連課題	令和2年度 ～ 令和3年度	(株)宮城リスタ大川(石巻市) (農)みのり(石巻市) (株)ゆいっこ(石巻市)	<p>【前年度までの実施状況・今後の改善方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 土づくりモデル実証ほを設置し調査結果を基に検討した結果、耕種農家が堆肥散布の効果を実感 地域内の畜産農家の堆肥供給可能量を調査。耕種農家との意見交換を通して、畜産農家と連携した堆肥散布を開始 水稲乾田直播栽培実証ほの設置により雑草防除対策、技術改善方向が明確化。土地利用型法人の稲作部門内の労働力配分の検証開始 <p>【活動事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 土づくりモデル実証ほ設置による効果検証支援 地域内有機物供給・活用計画策定・活用体系構築支援 水稲乾田直播栽培実証ほ設置による導入効果検証支援 <p>【最終成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 堆肥散布の効果による収量向上が実感、畜産農家との連携による地域内有機物の活用が進んだ。 収量向上に伴い、堆肥散布経費を含めても所得が向上することが確認された。 水稲乾田直播栽培導入により、春と秋の労働時間集中が分散し、平準化されることが確認された。
<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機物投入ほ場における水稲玄米収量 R1: 430kg/10a → R2: 445kg/10a → R3: 460kg/10a 実績 (545kg/10a) <u>(543kg/10a)</u> 			
2 組織力強化による農業法人の経営ステップアップ 「GAP」関連課題	令和2年度 ～ 令和3年度	(株)めぐいと(東松島市)	<p>【前年度までの実施状況・今後の改善方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社員の業績評価と評価制度と制度に基づく昇級・昇格制度が整備されたが、システムの運用及び中長期計画の策定が求められる。 ミニトマト部門は作業の標準化に先立ち、社員の栽培技術向上と情報共有を図る。 水稲部門は新人社員の育成と技術力向上、社員の情報共有を図る。 <p>【活動事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内体制・内規整備など支援 ミニトマト部門における作業の標準化支援 水田部門の強化支援 <p>【最終成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体会議や部門会議、リーダー会議等の定期開催により、社内における情報共有が図られ、業務改善にも繋がった。 各部門へのリーダーの配置や面談に基づいた社員の業績評価など、人材育成に向けた取組が進んだ。 部門別の若手社員に対する勉強会により、栽培管理技術の向上が図られた。特に、ミニトマトにおいては、標準作業書により同じ視点での病害虫管理が行われるようになった。
<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニトマトにおける標準作業 R1: 0 → R2: 1 → R3: 1 実績 (0) (病害虫発生調査に関する標準作業書) 			

課題名	計画期間	対象(地域等)	概要
3 県育成品種「にこにこベリー」の収量安定化 「園芸振興」関連課題	令和2年度 ～ 令和3年度	(株)いちごランド石巻(石巻市) (株)トライベリーファーム(石巻市) (株)イグナルファーム(東松島市) ○波及効果対象 (株)アグリ・パレット(石巻市) (株)サンエイト(東松島市)	<p>【前年度までの実施状況・今後の改善方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収量低下要因をまとめ改善策を提案したところ、炭酸ガスの導入(ハダニ対策)や培地交換等、対策が実施された。 栽培勉強会を通して品種特性や摘果の必要性が理解された。 10日ごとの生育調査や環境制御内容が、栽培に影響することを理解し、関心を持つようになった。 定期巡回により良質な苗が確保された。 11月～2月の収量はR3年産はR2年産と比較し、増収が見られた。 <p>【活動事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生育データに基づいた栽培支援 環境データに基づいた養液、温度管理支援 <p>【最終成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作りの終わりに株を掘り返し、培地の状態や根の張り方を確認することで、培地の更新や定植方法等の改善ポイントを生産者が見いだせた。 こまめな育苗管理を指導することにより、良質な苗を十分量確保できた。 10日おきの生育調査、糖度調査とウィークリーレポートにより、「にこにこベリー」の品種特性に応じた栽培技術や環境制御技術が習得された。
<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「にこにこベリー」11月～2月末までの収量 R2年産: 実績 (1.49t/10a) → R3年産: 2.5t/10a 実績 (2.3t/10a) → R4年産 2.5t/10a 実績 (2.5t/10a 達成見込) 			
4 地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着 (継続課題) 「園芸振興」関連課題	令和2年度 ～ 令和4年度	アスパラガス研究会(20経営体)	<p>【前年度までの実施状況・今後の改善方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培管理勉強会の実施により生理生態への理解と採りつきり栽培の技術習得が図られた。 販売戦略会議(グループワーク)の実施により生産者が主体的に短期・長期的販売戦略を検討した。 対象者の一部で病害(茎枯病、斑点病)が発生し、株落ちの原因と分かり、対策が求められている。 <p>【活動事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術習得による安定生産 直売・市場出荷等の販売力向上 ネットワークの向上によるアスパラガスの導入定着 <p>【R3年度の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> アスパラガス栽培管理勉強会の実施により生理生態への理解と採りつきり栽培の技術習得が図られ、栽培面積は54aと増加している。 農協や市場等と連携した販売戦略会議により、直売等を中心とした販売戦略が共有化された。 採りつきり栽培のみならず、出荷時期の拡大を目指したパイプハウスでの立茎栽培への関心が高まってきた。
<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> アスパラガス栽培面積 R1: 2a → R2: 25a → R3: 50a → R4: 100a 実績 (47a) (54a) 			